画面全体を明るく・暗くする(露出補正)

フィルムに当たる光の量が多くなると、画面全体が明るくなって露出オーバーとなります。少なくなると、全体が暗くなって露出アンダーとなります。

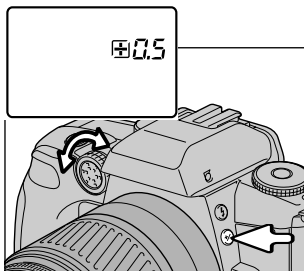
適正露出

露出オーバー

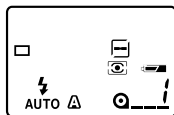
露出アンダー

応用撮影編

このカメラでは、フィルムに当たる光の量を調節して、意図的に露出オーバー、露出アンダーにする(露出補正をする)ことができます。

右のような場面だと、カメラは被写体である人形が明るく写るように、自動的に露出を調整します。このような場合にアンダー側に露出補正をかけると、人形をシルエットとして浮かび上がらせることができます。

露出補正ボタンを押しながらダイヤルを回し、希望の補正値を設定します。

- ⊞は露出オーバー、⊟は露出アンダーを表わします。数値が大きいほど、露出補正量は大きくなります。
- －3.0から＋3.0まで、0.5段ごとに設定できます。

- －2.0から＋2.0までの露出補正値ではスケール目盛(露出補正値の上に指標)で表わします。
- －2.5のときは、－側の◀が点灯、＋2.5のときは、＋側の▶が点灯します。
- －3.0のときは、－側の◀が点滅、＋3.0のときは、＋側の▶が点滅します。

ボディ表示部

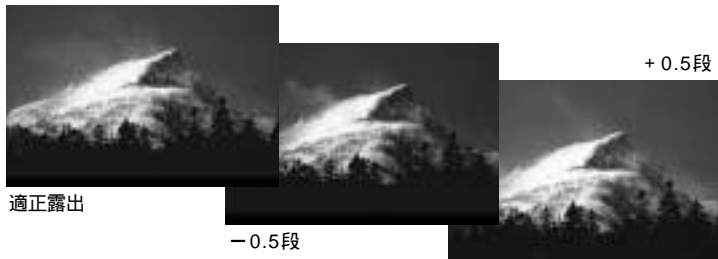
露出補正ボタンから指を離すと、通常の撮影表示に戻ります。ボディ表示部とファインダー内に⊞または⊟の表示が残り、露出補正されていることを表わします。

ファインダー表示部

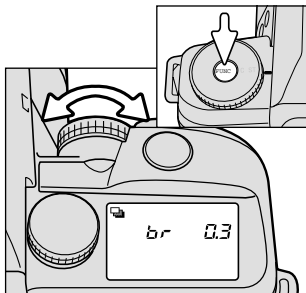
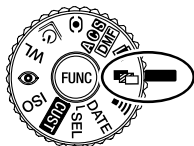
(例)－2.0に補正

- ■ **Mモードでは露出補正はできません。**
- ■ **ネガフィルムでは効果が出にくいので、リバーサルフィルムの使用をおすすめします。**
- ■ **露出補正を解除する場合は、上記と同じ操作で補正値を0.0にしてください。または、フルオートプログラムに合わせ直してください。**

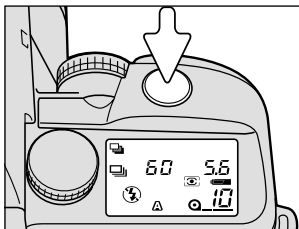
自動的に露出をずらして撮影する(ブラケット撮影)

リバーサルフィルムを使うときなど、厳密な露出を要求される撮影では、適正露出での撮影以外に少し露出をずらして何点か撮影することがあります。これをブラケット(露出ずらし)撮影といいます。

このカメラでは設定した段階(ステップ)で自動的にブラケット撮影ができます。0.3段、0.5段、0.7段、1段の4つの段階が設定できます。
設定した段階で3枚の撮影ができます。
適正露出、露出アンダー、露出オーバーの順で撮影されます。

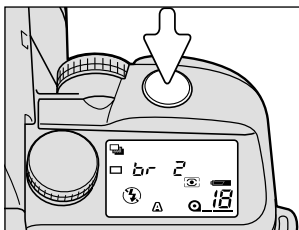
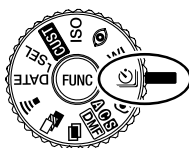
1.ファンクションダイヤルを の位置まで回します。

2.ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ブラケットのステップを設定します。

- 設定は連続撮影になります（3コマ)。1コマ撮影でブラケット撮影される場合は、次ページの手順**4**に進んでください。

次ページに続く

応用撮影編

3.シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- 連続3コマの撮影(適正露出、露出アンダー、露出オーバーの順に)をします。3枚分の撮影が終わるまでシャッターボタンから指を離さないでください。途中で指を離すと、ブラケット撮影はキャンセルされます。もう一度シャッターボタンを押すと、新たに次のブラケット撮影を始めます。

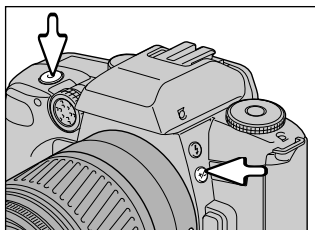
1コマ撮影でブラケット撮影するには

4.ブラケット撮影を設定した後に、ファンクションダイヤルを巻き上げモードにして、ダイヤルで1コマ撮影 □ を選びます。

- シャッターボタンを半押し後、シャッターボタンから指を離すとボディ表示部にブラケット撮影1枚目を表わすbr 1の表示がでます。

5.シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- 1コマごとにシャッターボタンを押して撮影してください。
- 撮影後、シャッターボタンから指を離すとボディ表示部にブラケット撮影枚数を表わすbr 2、br 3、が表示されます。3コマ撮影後は1コマ目に戻り、シャッターボタンを半押しした後に指を離すとbr 1が表示されます。

簡単にブラケット撮影をするには

左ページの操作をしなくても、簡単にブラケット撮影をする方法もあります。

露出補正ボタンを押しながらシャッターボタンを押し続けます。

- 連続撮影になりますので、3枚の撮影が終わるまで、シャッターボタンから指を離さないでください。
- ブラケットのステップは0.5段となります。
- 露出補正ボタンから指を離すと元の設定に戻ります。(3コマ撮影中は戻りません。)

■ **ブラケット撮影を解除するときは、同じ要領で OFF を選んでください。または、フルオートプログラムに合わせ直してください。**

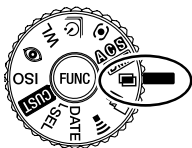
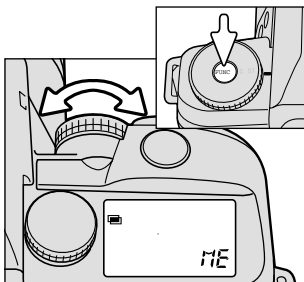
■ **フラッシュは発光しません。ボディ表示部には ⚡ が表示されます。フラッシュを発光させたいときは、ブラケット撮影を解除してください。**

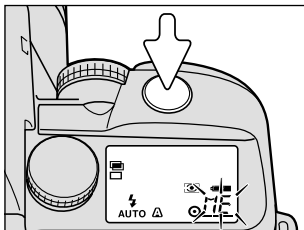
■ **基準となる露出値(±0)は、1枚目を撮影するときに固定されます。**

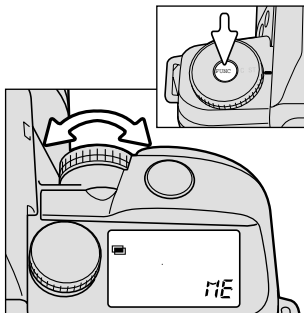
■ **露出補正(P.81)をかけると、基準となる露出値(±0)もそれに応じて変わります。**

■ **ネガフィルムでは効果が出にくいので、リバーサルフィルムの使用をおすすめします。**

多重露光で撮影する

1コマのフィルムに続けて何度も露光することができます。

1.ファンクションダイヤルを の位置まで回します。

2.ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に を表示させます。

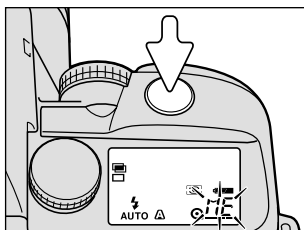
- フィルムカウンターは ME になります。
- 設定は1コマ撮影になります。2コマの連続撮影をしたい場合は、多重露光設定後に巻き上げモードで連続撮影を選びます。ただし、2コマの連続撮影しかできません。

3.シャッターボタンを押し、1回目の撮影を行ないます。

- 1回目の露光が行なわれ、フィルムカウンターの ME が点滅します。フィルムは巻き上げられません。
- 2回しか露光しない場合は、7.に進んでください。

合計３回以上の露光をする場合

4.ファンクションボタンを押しながら、ダイヤルを1クリック動かします。

● ME の点滅が ME 点灯になります。

5.シャッターボタンを押し、撮影します。

6.必要なだけ4、5の操作を繰り返します。

最後の露光をします

7. ME が点滅している状態で、シャッターボタンを押し、最後の露光をします。

● ME が点滅している状態で撮影すると、フィルムが次のコマへ巻き上げられ、フィルムカウンターは通常の状態に戻ります。

● 撮影後は多重露光が解除されます。

■ 多重露光撮影では、背景を暗めにすることをおすすめします。また被写体の状況によっては、あらかじめアンダー側に露出補正しておく必要があります。

■ 撮影の途中で多重露光を解除したい場合は、1、2の要領で OFF を表示させます。または、フルオートプログラムに合わせ直してください。メインスイッチをOFFにしても解除されません。

■ ネガフィルムで多重露光撮影した場合は、その旨を店頭で申し出ないとプリントされないことがあります。

■ 日付・時刻の写し込みは、最後に巻き上げた時の日付・時刻が写し込まれます。

フラッシュ撮影について

このカメラには、28mmレンズの画角をカバーするガイドナンバー16(ISO 100)の内蔵フラッシュが搭載されています。ここでは、内蔵フラッシュだけでなく、別売のプログラムフラッシュも含めた、フラッシュ撮影全般について説明しています。

Dレンズおよびフラッシュ(名称の最後に(D)の入っているもの)使用時は、ADI調光方式でフラッシュ調光します。この調光方式は、14分割ハニカムパターン測光と同じようにオートフォーカスと連動し、カメラが被写体の位置を判断してフラッシュの発光量を決定します。さらにフラッシュのガイドナンバーを制御するため、背景の状況や被写体の反射率に左右されにくく、より正確にフラッシュ調光できます。
※ADIとはAdvanced Distance Integrationの略です。

ADI調光

従来の平均的な調光

プログラムフラッシュについて

内蔵フラッシュで光が届かない場合は、プログラムフラッシュ5600HS(D)・3600HS(D)・2500(D)等の外部フラッシュでフラッシュ撮影できます。

- プログラムフラッシュの取り付け方法は、付録(P.117)をご覧ください。
- フラッシュ表示は内蔵フラッシュと同じです。
- フラッシュ光の届く範囲については、フラッシュの使用説明書をご覧ください。5600HS(D)、5400HS、5400xiをお使いの場合は、フラッシュ背面に表示される距離内で撮影してください。

フラッシュ調光方式について

TTL調光　カメラが自動的に発光量を決めます。

DI調光　TTL調光を発展させたもので、撮影の直前にフラッシュを一度発光させ(プリ発光)、その反射光を測光して調光演算に反映させます。

ADI調光　TTL調光をさらに発展させたもので、DI調光に加えてフラッシュのガイドナンバー制御も行います。被写体の反射率にほとんど影響されることなく、より正確に適正露出を得ることができます。

フラッシュ調光方式は、使用レンズ・使用フラッシュによって異なります。

	Dレンズ	その他のレンズ
5600HS(D) 3600HS(D) 2500(D)	ADI 調光	DI 調光
5400HS	DI 調光	DI 調光
その他の プログラムフラッシュ	TTL調光	TTL調光
内蔵フラッシュ	ADI 調光 (プリ発光なし)	TTL調光

シャッター速度がフラッシュ同調速度(1/90秒)を越える場合は、ハイスピードシンクロTTL調光となります。ワイヤレスフラッシュの場合はワイヤレスTTL調光となります。

Dフラッシュ使用時は、HSS機能をONにしていると(2500(D)は調光モードをADIに設定している場合)プリ発光が行われ、ADI・DI調光が行われます(表中　)。Dレンズ使用時は、内蔵フラッシュでもADI調光(プリ発光なし)が行われます(表中　)。

次ページに続く

応用撮影編

フラッシュメーターやカラーメーターを使用する場合

プリ発光が行われると正確な測定ができません。表中▒▒で実際に撮影して測光する場合は、ハイスピードシンクロを解除するか、カスタム設定にてADI・DI調光を解除してください。フラッシュのテスト発光ボタンで測光、マニュアルフラッシュ発光する場合は問題ありません。

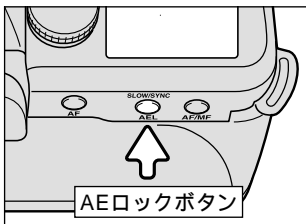
一部のフィルターやレンズ等を使用する場合

露出倍数のかかるフィルター（ND等）、クローズアップレンズ、Dレンズでないマクロレンズのフォーカスレンジ切り替えノブ、一部のレンズに装備しているマクロ切り替えレバー使用時は、ADI・DI調光では適正露出を得ることができません。表中▒▒の場合は、ハイスピードシンクロを解除するか、カスタム設定にてADI・DI調光を解除してください。表中▭の場合は、カスタム設定にてADI・DI調光を解除してください。

- ハイスピードシンクロ機能解除時(フラッシュ背面のHSSマークが消えている状態)、バウンス撮影時、およびオフカメラケーブルを使用時には、ADI・DI調光でなくTTL調光になります。
- ハイスピードシンクロの解除はフラッシュ側で行なうのでフラッシュの使用説明書を、カスタム設定でのADI・DI調光の解除はP.111をご覧ください。

スローシンクロ撮影について

夜景を背景にして記念撮影する場合、スローシンクロ撮影(シャッター速度の遅いフラッシュ撮影)をすると、人物も背景もきれいに撮ることができます。

AEL

ファインダー内に ϟ が点灯しているとき(フラッシュが発光するとき)に、AEロックボタンを押しながら撮影します。

- ファインダー表示部に AEL が点灯します。

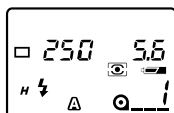
- ■ 撮影シーンセレクターの「夜景ポートレート」と得られる効果は同じです(P.44参照)。
- ■ シャッター速度が遅くなりますので、三脚の使用をおすすめします。
- ■ フラッシュが発光しないときにAEロックボタンを押すと、撮影時の測光のAEロックになります(P.76参照)。
- ■ Sモード、Mモードではスローシンクロ撮影はできません。
- ■ AEロックボタンから指を離してもスローシンクロ撮影のままになるように(押し続けなくてもいいように)カメラの設定を変えることもできます(P.110参照)。

ハイスピードシンクロ撮影について

別売のプログラムフラッシュ5600HS(D)、3600HS(D)、5400HSをこのカメラに取り付けてフラッシュの液晶表示部にHSSを表示させると、フラッシュ同調シャッター速度の制限がなくなり、すべてのシャッター速度(30秒〜1/2000秒)でフラッシュ撮影ができるようになります。

ハイスピードシンクロ撮影

通常のフラッシュ撮影

絞り値の選択幅が広がるので、フラッシュを使った撮影でも絞りを開け、人物が浮き上がって見えるポートレートを撮ることができます。

ハイスピードシンクロ撮影では、ボディ表示部とファインダー内のフラッシュモード表示の横にHが点灯します。

設定はフラッシュ側で行います。方法はフラッシュの使用説明書をご覧ください。

- **ハイスピードシンクロ撮影では、通常のフラッシュ撮影よりも調光距離の範囲が短くなります。撮影前に、被写体がプログラムフラッシュの連動距離範囲内にあるかどうかプログラムフラッシュ本体または使用説明書で確認してください。**
- **蛍光灯下で撮影するとき、またはファインダー内に測光範囲外の警告表示([icon] [icon] [icon])の点滅が出るときは、適正露出が得られないことがあります。1/90秒より高速のシャッター速度にしないでください。**
- **フラッシュメーターやカラーメーターを使用する場合は、適正露出が得られないためハイスピードシンクロ撮影ができません。ハイスピードシンクロを解除するか、1/90秒以下のシャッター速度を選んでください。**

ワイヤレスフラッシュ撮影について

別売のプログラムフラッシュ5600HS(D)、3600HS(D)、5400HS、5400xi、3500xiを使うと、ワイヤレスフラッシュ撮影ができるようになります。

フラッシュをカメラに取り付けて撮影

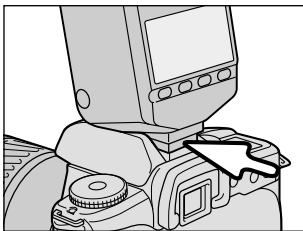
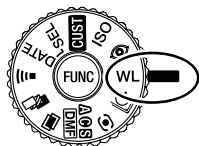
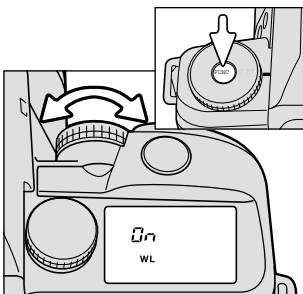
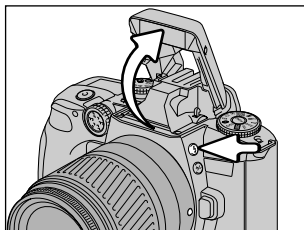
ワイヤレスフラッシュ撮影(標準)

ワイヤレスフラッシュ撮影(光量比制御)

フラッシュをカメラの上に取り付けて撮影すると、写真①のように平面的な写真になることがあります。
このようなとき、フラッシュをカメラから取り外し、フラッシュの位置を工夫することで、②のような陰影の付いた立体感のある写真が撮影できます。
写真③は、カメラの内蔵フラッシュとカメラから離したプログラムフラッシュの光量を、1:2の割合で発光させたものです。明暗差が柔らかくなり、自然な陰影を付けることができます。

一眼レフカメラでこのような撮影をするときには、カメラとフラッシュをコードで接続しなければならない場合があります。このカメラは、コードがなくてもこのような撮影ができます。これは、カメラとフラッシュの信号の伝達をコードではなく、フラッシュの光を利用するからです。この撮影をワイヤレス(＝コードのない)フラッシュ撮影といいます。
もちろん露出はカメラが自動で適正露出になるよう制御します。

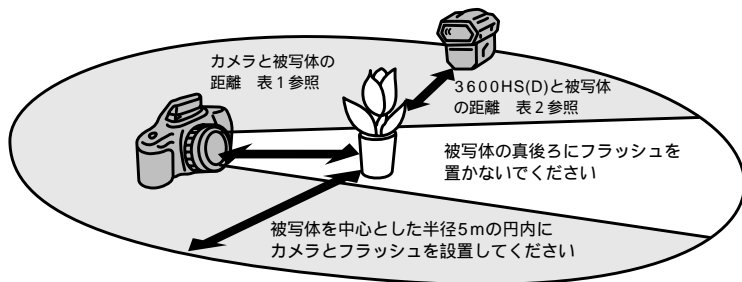
応用撮影編

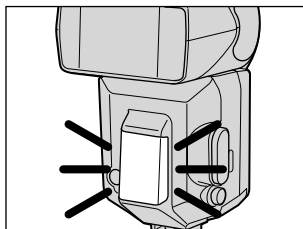
ワイヤレスフラッシュ撮影をするには

1. フラッシュをカメラに取り付け、フラッシュとカメラの電源をONにします。

2. ファンクションダイヤルを WL の位置まで回します。

3. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に WL On を表示させます。

4.フラッシュをカメラから取り外し、フラッシュモードボタンを押してカメラの内蔵フラッシュを上げます。

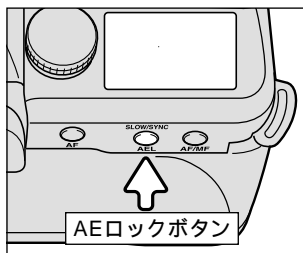
5.カメラとフラッシュの位置を決めます。

このカメラは内蔵フラッシュの発光を信号として対応のプログラムフラッシュを発光させます。信号が正しく受け取れるよう以下のことに気を付けてください。

- 室内など暗いところで撮影してください。
- 下図の◯の部分にフラッシュを設置してください。フラッシュと被写体の距離(次ページの表2)については、例として3600HS(D)を使用した場合の代表的な距離を記載しています。詳しい距離情報については、それぞれのフラッシュの使用説明書をご覧ください。

次ページに続く

	カメラと被写体の距離(表1)	3600HS(D)と被写体の距離(表2)			
		HSSでない撮影		HSS撮影	
シャッター速度 / 絞り値	全シャッター速度	1/45秒以下	1/60〜1/90秒	1/250秒	1/1000秒
2.8	1.4 - 5 m	1.4 - 5 m	1 - 5 m	1 - 4 m	1 - 2 m
4	1 - 5 m	1 - 5 m	1 - 5 m	1 - 3 m	1 - 1.5 m
5.6	1 - 5 m	1 - 5 m	1 - 5 m	1 - 2 m	

- 表の値はISO100のフィルム使用時です。ISO400の場合は、上記の値の2倍の距離になります(上限は5mです)。
- ワイヤレスフラッシュ撮影においてもハイスピードシンクロ撮影が可能になりシャッター速度全域(30秒〜1/2000秒)でフラッシュ撮影ができます。
  これはプログラムフラッシュ5600HS(D)、3600HS(D)でのみ可能です。それ以外のフラッシュでは、シャッター速度は1/45秒または、それ以下となります。

6.カメラの内蔵フラッシュとプログラムフラッシュの充電完了を確認します。

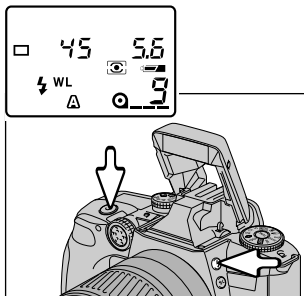
- 内蔵フラッシュは、ファインダー内の ϟ が点灯すると充電完了です。
- プログラムフラッシュは、背面の ϟ が点灯し、前面のAF補助光が点滅すると充電完了です。

7.カメラのAEロックボタンを押し、カメラから離したフラッシュが発光することを確認します(テスト発光)。

8.もう一度両方のフラッシュの充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● ワイヤレス撮影で2台以上のフラッシュを発光させることもできます。Dフラッシュとそれ以外のフラッシュを同時に発光させる場合、Dフラッシュでないフラッシュをカメラに取り付けてワイヤレス設定にしてください。Dフラッシュを取り付けて設定すると、Dフラッシュでない方が発光しないことがあります。

■ **AEロックボタンから指を離しても、その機能が残るよう設定を変更しているとき(P.110)は、設定番号1に戻すことをおすすめします。設定番号2の状態では、ファインダー内に ϟ が点灯している間はスローシンクロ撮影になります。また、テスト発光のたびに、スローシンクロ撮影とそうでない状態とが切り替わります。**

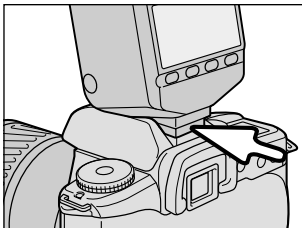
光量比制御撮影をする

プログラムフラッシュを2、カメラの内蔵フラッシュを1の割合で発光させることができます。

1.通常のワイヤレスフラッシュ撮影と同様にカメラとフラッシュを設定します。

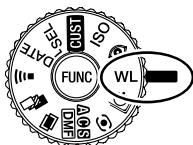
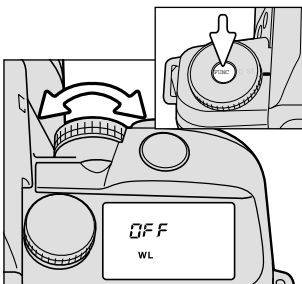
2.カメラのフラッシュモードボタンを押しながら、シャッターボタンを押して撮影します。

■ **プログラムフラッシュとカメラの内蔵フラッシュの割合を逆に設定することはできません。**

■ **このときはワイヤレスハイスピードシンクロにはなりません。**

■ **シャッター速度は、1/45秒またはそれ以下となります。**

応用撮影編

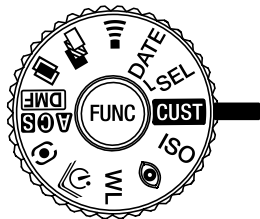
ワイヤレスフラッシュ撮影を解除する

1. フラッシュをカメラに取り付け、フラッシュとカメラの電源をONにします。

2. ファンクションダイヤルを WL の位置まで回します。

3. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、ボディ表示部に WL OFF を表示させます。

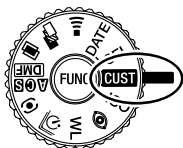
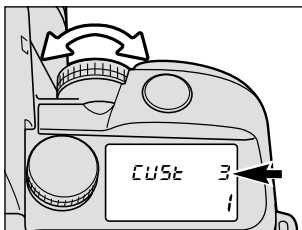
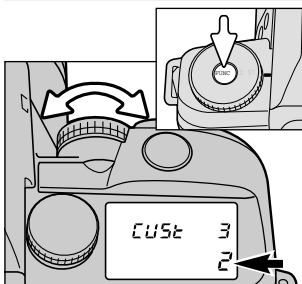
■ フラッシュをカメラに取り付けた状態でカメラのメインスイッチをOFFにしても、ワイヤレス設定は解除されます。

■ カメラとフラッシュを離した状態でそれぞれのメインスイッチをOFFにすると、カメラのワイヤレス設定は解除されますが、フラッシュは解除されません。フラッシュだけでワイヤレス設定を解除するには、それぞれのフラッシュの使用説明書をご覧ください。

カメラの設定を変更する(カスタム設定)

カメラの設定状態を、お客様の好きな状態に変更する方法を説明しています。

カメラの設定を変更する(カスタム設定)

カメラの設定をお好みの状態に変更できます。各項目の説明については、P.102以降をご覧ください。
お買い上げ時には、設定はすべて「1」になっています。

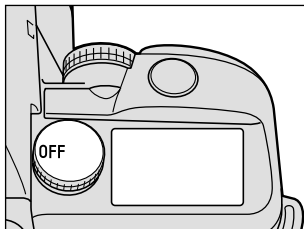
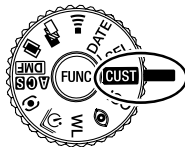
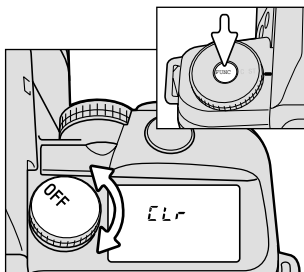
カスタム設定を変更するには

1. ファンクションダイヤルを CUST の位置まで回します。

2. ダイヤルを回し、変更したい項目(カスタム-1〜カスタム-15)を選びます。

3. ファンクションボタンを押しながらダイヤルを回し、設定を変更します。

4. ファンクションダイヤルを CUST 以外の位置まで回します。

■ 設定した内容は、フルオートプログラムにしても、カメラの電源を切ったり、電池を抜いても、保持されています。
■ ファンクションダイヤルの CUST 位置では、撮影することはできますが、他の操作部材との併用はできません。

カスタム設定の初期化

以下の方法にて、カスタム設定を一括して初期状態（設定番号1）に戻すことができます。

- ただし、カスタム15（年・月・日の並び替え）の設定はリセットされません。P.100に記載の設定方法にて変更してください。

1.メインスイッチ/モードダイヤルをOFFの位置に合わせます。

2.ファンクションダイヤルを CUST の位置まで回します。

3.ファンクションボタンを押しながら、メインスイッチをOFF以外のモードにします。

- ファンクションボタンを押している間、CLrの表示が点滅します。

カスタム編

カスタム設定項目

カスタム設定項目		設定	
1	オートフォーカス優先／レリーズ優先	1	オートフォーカス優先
		2	レリーズ優先
2	自動巻き戻し	1	あり
		2	なし
3	巻き戻したフィルムの先端	1	残さない (パトローネ内に巻き込む)
		2	残す
4	フィルム感度変更記憶	1	なし
		2	あり
5	フィルム未装填時のレリーズロック	1	なし
		2	あり
6	フォーカスホールドボタンの機能	1	フォーカスホールド
		2	コンティニュアスAF
		3	プレビュー(絞り込み)
7	Pモード時(フルオートプログラムと撮影シーンセレクター含む)のフラッシュ自動発光の有無	1	フラッシュ自動発光あり(PA/PSシフトなし)
		2	フラッシュ自動発光なし(ダイヤルを回すとPAシフト)
		3	フラッシュ自動発光なし(ダイヤルを回すとPSシフト)

カスタム設定項目		設定	
8	スポットAFロックボタンの機能	1	中央のスポットフォーカスフレームを選択
		2	ローカルフォーカスフレームの選択
		3	ワイドフォーカスフレームとスポットフォーカスフレームの切り替え
9	AEロックボタンの機能	1	ボタンを押している間だけ機能する
		2	一度ボタンを押すと機能し、もう一度押すと解除
10	内蔵フラッシュによるAF補助光	1	あり
		2	なし
11	フラッシュ調光方式	1	ADI調光
		2	TTL調光
12	フォーカスフレーム表示	1	0.3秒
		2	0.6秒
		3	表示なし（スポットAFロックボタンを押した時のみ表示）
13	レンズ未装着時のレリーズロック	1	あり
		2	なし
14	裏ぶた開時のレリーズロック	1	あり
		2	なし
15	年・月・日の並べ替え	1	年・月・日
		2	月・日・年
		3	日・月・年

カスタム-1　オートフォーカス優先／レリーズ優先

1.オートフォーカス優先

ピントが合わなければシャッターは切れません。

2.レリーズ優先

ピントが合っていなくても、シャッターボタンを押したときにシャッターが切れます。

■ **シャッターチャンスを逃さずに撮影することができます。**

■ **ファインダー内の ● または (◉) が点灯してから(ピントが合ってから)撮影することをおすすめします。**

カスタム-2　自動巻き戻し

1.自動巻き戻しあり

最後のコマを撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

2.自動巻き戻しなし

最後のコマを撮影しても、巻き戻しは始まりません。巻き戻しを始めるときは、ボディ背面の途中巻き戻しボタンを押してください。

■ **結婚式など、巻き戻しの音を突然立てたくないときに便利です。**

カスタム-3　巻き戻したフィルムの先端

1.フィルムの先端を残さない

巻き戻したフィルムは、すべてパトローネ内に巻き込まれています。

2.フィルムの先端を残す

巻き戻したフィルムの先端はすべてパトローネ内に巻き込まれず、一部外に出ています。

■ **巻き戻しの途中でメインスイッチをOFFにしないでください。ONにすると巻き戻しが再開しますが、フィルムがすべて巻き込まれてしまうことがあります。**

カスタム-4　フィルム感度変更記憶

1.フィルム感度変更記憶なし

撮影者がフィルム感度の設定・変更を行った場合でも、その設定は該当するフィルム１本のみのものとして扱われます。

2.フィルム感度変更記憶あり

撮影者がフィルム感度の設定・変更を行った場合、次に同じ感度のフィルムを入れると、同様の変更が自動的になされます。
(例：ISO 400のフィルムをISO 800に変更した場合、次にISO 400のフィルムを入れると、フィルム感度は自動的にISO 800になります。)

■ **リバーサルフィルムを頻繁に好みの感度に合わせて使われる方に便利です。**
■ **フィルムを入れてからフィルム感度の設定・変更をしてください。**
■ **いったん違う感度のフィルムを入れると、記録されたフィルム感度はリセットされます。**

カスタム-5　フィルム未装填時のレリーズロック機能

1.フィルム未装填時のレリーズロックなし

カメラにフィルムを入れなくても、シャッターを切ることができます。

2.フィルム未装填時のレリーズロックあり

フィルムが入ってなければシャッターは切れません。

- **フィルムを入れ忘れたまま撮影するという失敗を防ぎます。**
- **シャッターボタンを押し込むと、絞り値表示部分(ボディ表示部およびファインダー表示部)に 0 が点滅してフィルムが未装填であることを警告表示します。**

カスタム-6　フォーカスホールドボタンの機能

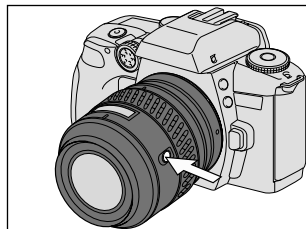
レンズのフォーカスホールドボタンの機能を変更します(フォーカスホールドボタン付きのレンズのみ)。

1.フォーカスホールド

フォーカスホールドボタンを押している間、ピント位置が固定されます。

2.コンティニュアスAF

フォーカスホールドボタンを押している間、コンティニュアスAFとなり、常にピントを合わせ続けます。

■ 瞬時に動いているものを撮影したい時に便利です。

3.プレビュー(絞り込み)

フォーカスホールドボタンを押している間、設定している絞り値までレンズが絞り込まれ、ボケ具合を確認することができます。

- **プレビューボタンと同じ機能が使えます(P.65参照)。**
- **Dレンズ以外のレンズをお使いの場合は、シャッターボタンを半押しした状態でフォーカスホールドボタンを押してください。**

カスタム-7　Ｐモード時(フルオートプログラム・撮影シーンセレクター含む)のフラッシュ自動発光の有無

1.フラッシュ自動発光あり(PA/PSシフトなし)

Ｐモードでシャッターボタンを半押しすると、フラッシュは必要時に、自動的に上がり発光します。
別売のプログラムフラッシュ使用時は、電源をONにしていると必要時に自動発光します。

■ フラッシュモードボタンを押しながらダイヤルを回して、強制発光または発光禁止を選ぶこともできます(P.37参照)。

2.フラッシュ自動発光なし(ダイヤルを回すとPAシフト)

3.フラッシュ自動発光なし(ダイヤルを回すとPSシフト)

Ｐモードでもフラッシュは自動発光しません。フラッシュを発光させるときは、フラッシュモードボタンを押して内蔵フラッシュを上げてください。別売のプログラムフラッシュ使用時は、フラッシュの電源をONにしてください。
フラッシュを発光させたくないときは、内蔵フラッシュを下げてください。
プログラムフラッシュ使用時は、フラッシュの電源をOFFにしてください。

- ２に設定すると、Ｐモードで測光値が表示されているときに、ダイヤルを操作して一時的に絞り値を変更(PAシフト)することができます(P.71参照)。
- ３に設定すると、Ｐモードで測光値が表示されているときに、ダイヤルを操作して一時的にシャッター速度を変更(PSシフト)することができます(P.71参照)。

■ 自動発光が煩わしいときおよびPA/PSシフトをご使用のときに設定してください。

カスタム-8　スポットAFロックボタンの機能

スポットAFロックボタンの機能を変更します。

1.中央のスポットフォーカスフレームを選択

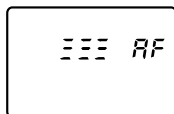
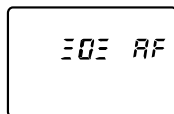
スポットAFロックボタンを押している間、ピント合わせはワイドフォーカスフレームではなく中央のスポットフォーカスフレームで行います。また、スポットAFロックボタンを押しながらダイヤルを回すとローカルフォーカスフレームを選択することもできます。
ボタンから指を離すとワイドフォーカスフレームに戻ります(P.53～55参照)。

2.ローカルフォーカスフレームの選択

スポットAFロックボタンを押しながらダイヤルを回すと特定のローカルフォーカスフレーム(スポットフォーカスフレームを含む)を選択することができます。ボタンを押しつづけなくても選択したフォーカスフレームは維持されます(P.56参照)。

3.ワイドフォーカスフレームとスポットフォーカスフレームの切り替え

スポットAFロックボタンを押すたびに、ワイドフォーカスフレームとスポットフォーカスフレームが切り替わります。

■ボディ表示部およびファインダー表示部に下記の表示がでます。(スポットAFロックボタンを押している間)

ワイドフォーカスフレーム

スポットフォーカスフレーム

カスタム-9　ＡＥロックボタンの機能

AEロックボタンの機能を変更します。

1.ボタンを押している間だけ機能する

ＡＥロックボタンを押している間のみ、測光値をロックするかまたはスローシンクロになります。ボタンを押しながらシャッターを切ってください(P.76参照)。

2.一度ボタンを押すと機能し、もう一度押すと解除

ＡＥロックボタンを一度押して離すと、測光値をロックするかまたはスローシンクロになります。シャッターを切るときに、ＡＥロックボタンを押し続ける必要がありません。解除するときは、もう一度ＡＥロックボタンを押してください。

■ **機能している間は、ファインダー内に AEL が表示されます。**
■ **フルオートプログラムにする、フラッシュ発光の有無を切り替える、メインスイッチをOFFにする等の操作でも解除されます。**

カスタム-10　内蔵フラッシュによるＡＦ補助光

1.内蔵フラッシュによるＡＦ補助光あり

必要時には自動的にＡＦ補助光が発光します。

■ **内蔵フラッシュを発光禁止 ⚡ にしているときは、AF補助光は発光しません。**

2.内蔵フラッシュによるＡＦ補助光なし

ＡＦ補助光は発光しません。

■ **フラッシュは発光させたいがAF補助光は発光させたくない場合に有効です。**
■ **内蔵フラッシュによるAF補助光なしに設定しても、プログラムフラッシュを使用した場合は、プログラムフラッシュの補助光は発光します。**

カスタム-11 フラッシュ調光方式

このカメラには、フラッシュ調光としてADI調光方式が採用されていますが、撮影者の好みによって変更することができます。

● 内蔵フラッシュにも別売のプログラムフラッシュにも共通です。

1. ADI調光

フラッシュ発光時には、使用フラッシュ・レンズによっては、ADIフラッシュ調光またはDI調光を使って露出を決定します。

■ **ADI調光・DI調光ができないフラッシュやレンズ使用時には、TTL調光となります。**

2. TTL調光

フラッシュ発光時にはTTLダイレクト調光方式を使って露出を決定します。

■ **メーターやソフトライティングセット、ディフューザー、NDフィルターを使われる場合はこの設定にしてください。**

カスタム-12 フォーカスフレーム表示

9つのローカルフォーカスフレーム(センサー部)のうち、ピントが固定されたフレームが一瞬赤く点灯します。この点灯時間を変更することができます。

1.ピント合焦時に表示(約0.3秒)

2.ピント合焦時に表示(約0.6秒)

3.表示なし(スポットAFロックボタンを押した時のみ表示)
スポットAFロックボタンを押したときのみ約0.6秒点灯します。

■ **シャッターボタン半押しでは点灯しません。シャッターを切るたびに点灯するのがわずらわしい場合にご使用ください。**

カスタム-13 レンズ未装着時のレリーズロック機能

1.レンズ未装着時のレリーズロックあり
カメラにフィルムが入っている場合、レンズを取り付けていなければシャッターは切れません。

■ **レンズが取り付けられていない状態で誤って撮影が行われるのを防ぎます。**
■ **シャッターボタンを半押しすると絞り値表示部分に「－ －」が点灯します。**

2.レンズ未装着時のレリーズロックなし
フィルムが入っていてレンズが取り付けられていなくても、シャッターを切ることができます。

■ **カメラを天体望遠鏡に取り付ける場合など、ミノルタAFレンズ以外のレンズで撮影したいときにご使用ください。それ以外は誤操作防止のため、設定1でのご使用をおすすめします。**

カスタム-14 裏ぶた開時のレリーズロック機能

1.裏ぶた開時のレリーズロックあり

裏ぶたが開いていると、シャッターを切ることができません。

2.裏ぶた開時のレリーズロックなし

裏ぶたが開いていても、シャッターを切ることができます。

カスタム-15 年・月・日の並び替え

写真に日付けを写し込む際の、年・月・日の並び方を変更することができます。

1. 年・月・日

2. 月・日・年

3. 日・月・年

■ カスタム15は、初期化の操作をしても初期設定(1.)にリセットされません。P.100に記載の設定方法にて変更してください。

付録

お使いいただけるアクセサリーや取り扱い上の注意についてまとめています。

このカメラと組み合わせて使えるアクセサリー

本使用説明書の作成後に発売されたアクセサリーと組み合わせた場合の互換性や使用方法等については、裏表紙に記載の弊社お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

レンズ

すべてのαレンズ、α-Xiレンズが使用できます。それ以外のレンズ(Vレンズ、MDレンズ、MCレンズなど)はご使用になれません。

カメラとレンズをセットで購入された方へ

レンズの主な仕様

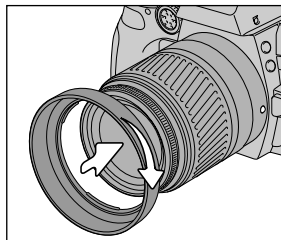
	AFズーム28-100mm F3.5-5.6 (D)	AFズーム75-300mm F4.5-5.6 (D)
レンズ(群ー枚)	8 - 10	10 - 13
画角	75°～24°	32°～8°10’
最近接撮影距離＊	0.48 m	1.5 m
最大撮影倍率	0.25 X	0.25 X
最小絞り	F22 - 38	F32 - 38
フィルター径	55 mm	55 mm
補修用性能部品保有年限(生産終了後)	5年	5年
大きさ(最大径 X 長さ)	66 X 78 mm	71 X 122 mm
重量	240 g	460 g

＊最近接撮影距離とは、フィルム面から被写体までの最短距離を示します。

■ 本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

付録

レンズフード

フラッシュを使わずに撮影する場合は、画面外にある光が描写に影響するのを防ぐために、フードの使用をおすすめします。
フードとレンズ先端とを合わせ(位置合わせ必要)、時計方向に回して取り付けます。

- ■ **内蔵フラッシュを使って撮影するときは、フラッシュ光がさえぎられることがありますので、レンズフードを外してください。**
- ■ **収納するときは逆向きに取り付けてください。**

フラッシュ

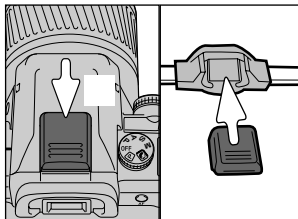
内蔵フラッシュでは光が届かないような距離でも、より大光量のプログラムフラッシュを用いれば、美しいフラッシュ撮影ができます。

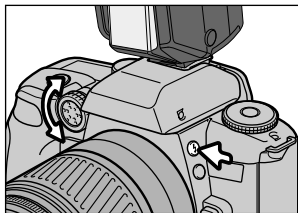
●プログラムフラッシュ5600HS(D)、3600HS(D)、2500(D)、5400HS、5400xi、3500xi、2000xi、5200i、3200i、2000i、ベクティスフラッシュSF-1、マクロリングフラッシュ1200、マクロツインフラッシュ2400は、そのままご使用になれます。

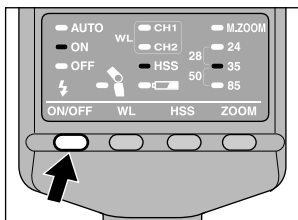
●AFシリーズ以前のフラッシュ(オートエレクトロフラッシュなど)や、ミノルタ以外の他社製のフラッシュは、このカメラでは使えません。

●プログラムフラッシュ4000AF、2800AF、1800AF、マクロフラッシュ1200AFをご使用になる場合は、以下の点にご注意ください。

・カメラに取り付ける際には、別売りのフラッシュシューアダプターFS-1100が必要です。

・フラッシュのAF補助光は発光しません。

取付方法

1.アクセサリーシューキャップを外してください①。キャップはストラップに付いているアイピースキャップに収納することができます②。
2.フラッシュのオートロックフットをカメラのアクセサリーシューに、止まるまでしっかりと差し込みます。(詳細はフラッシュの使用説明書をご参照ください)

カメラ側で操作する場合

カメラのフラッシュモードボタンを押しながらダイヤルを回します。
自動発光、強制発光、発光禁止のいずれか１つが選択されます。

3600HS(D)

フラッシュ側で操作する場合

フラッシュのON/OFFボタンを押します。シャッターボタンを半押しすると、カメラのボディ表示部に現在のモードが表示されます。

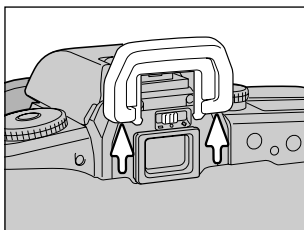
プログラムフラッシュ2500(D)を取り付けてお使いの場合の注意点

●2500(D)をOFF設定にしても、カメラ側が自動発光の設定になっていると、内蔵フラッシュが自動的に上がろうとしてしまいます。カメラ側も発光禁止の設定にしてください。

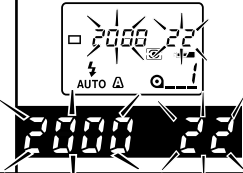
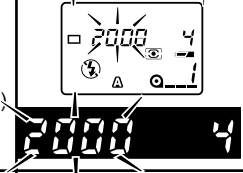
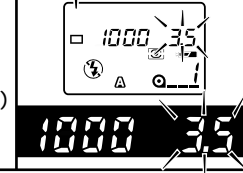
●2500(D)をON設定時、フラッシュモードボタンを押しながらダイヤルを左に回しても設定は変わりません。また、2500(D)をON設定時は、カメラ側で発光禁止を選択することはできません。

次ページに続く

- ■ フラッシュ表示は内蔵フラッシュと同じです。
- ■ フラッシュ光の届く範囲については、フラッシュの使用説明書をご覧ください。
- ■ 赤目軽減発光はできません(内蔵フラッシュ以外ではほとんど目が赤く写ることはありません)。
- ■ Pモードおよび撮影シーンセレクター選択時は、自動発光と発光禁止しか選択できませんので、フラッシュを必ず発光させたいとき(強制発光)はカメラ側で操作を行ってください。
- ■ A／S／Mモード時は、内蔵フラッシュと同じく、強制発光または発光禁止しか選べません。

アングルファインダー／マグニファイヤー

アングルファインダー、マグニファイヤーなど、ファインダー部分にアクセサリーを取り付ける場合は、アイピースカップを外してください。アイピースカップは両側を上に押し上げると外れます。

視度調整アタッチメント1000

ファインダー内の画像がはっきり見えないときは、視度調整アタッチメント1000を取り付けて視度を調整することができます。近視用4種類、遠視用5種類があります。

以下のものは、このカメラと組み合わせての使用はできません。

●ワイヤレスフラッシュリモコン
●コントロールグリップCG-1000
●データレシーバーDR-1000
●ワイヤレスコントローラーIR-1N
●各種縦位置コントロールグリップ
●データセーバーDS-100
●リモートコードRC-1000S/RC-1000L
●バッテリーパックBP-200
●クローズアップディフューザーCD-1000

測光値表示が点滅したときは(露出の警告)

そのまま撮影すると適正露出が得られないときは、測光値表示が点滅してお知らせします。点滅しないように設定を変えてください。

	表示部	原因	処置
P／A／S／M	14分割ハニカムパターン測光時 中央重点平均測光時 スポット測光時	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、カメラの測光範囲を超えています。	被写体が明るすぎるときは、NDフィルターを使うか、被写体が暗くなるようにします。 被写体が暗すぎるときは、フラッシュ撮影を行なうか、被写体が明るくなるようにします。
P	2000 22	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、使用レンズの絞り値、シャッター速度の範囲を超えています。	
A (PA)	2000 4	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、シャッター速度の範囲を超えています。	シャッター速度が点滅しないように、絞り値を変更します。
S (Ps)	1000 3.5	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、使用レンズの絞り値の範囲を超えています。	絞り値が点滅しないように、シャッター速度を変更します。

■ 上記のうち、上の2つは撮影シーンセレクター選択時およびフルオートプログラム設定時にも表示されることがあります。

あれっ？と思ったときは

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、「アフターサービスのご案内」に記載されている弊社アフターサービス窓口にお問い合わせください。

症状	点検項目	処置	ページ
ピントが合わない。	ボディ表示部に MF が表示されていませんか。	フォーカスモードボタンを押してオートフォーカスにしてください。	59
	オートフォーカスの苦手な被写体(P.33)を撮ろうとしていませんか。	フォーカスロック、または手動によるピント合わせを行なってください。	33 59
	被写体に近づきすぎていませんか。	レンズの最近接撮影距離より離れて撮影してください。(最近接撮影距離については、レンズの使用説明書をご覧ください。)	
シャッターが切れない。	ピントは合っていましたか。	ピントが合わないとシャッターは切れません。ピントが合わなくてもシャッターが切れるようにすることもできます。	104
	カメラを天体望遠鏡などに取り付けていませんか。	天体望遠鏡などにカメラを取り付けた場合は、フィルムが入っているとシャッターが切れません。	112
	カスタム設定でレリーズロックありにしていませんか。	以下のカスタム設定時は、カメラの状態によってはシャッターは切れません。 1.フィルム未装填時（カスタム5-2） 2.レンズ未装着時（カスタム13-1） 3.裏ぶた開時（カスタム14-1）	106 112 113

あれっ？と思ったときは (続き)

症状	点検項目	処置	ページ
各種操作部材での機能変更ができない。	ボディ表示部に「CUSt」または日付が表示されていませんか。	ファンクションダイヤルの設定を CUST 及び SEL 以外にしてください。	
暗いところでシャッターボタンを半押しすると、フラッシュが発光する。	暗いところでもピントが合うようにするためのフラッシュ(AF補助光)です。	フラッシュを発光禁止にすると、AF補助光も発光しません。また、AF補助光だけを発光しないようにすることもできます(P.110参照)。	39
写真がぶれてしまう。	暗いところでフラッシュを発光させずに撮影しませんでしたか。	フラッシュまたは三脚の使用をおすすめします。高感度フィルムを使うと手ぶれが少なくなります。望遠レンズを使ったり、フラッシュを発光させずに撮影すると、手ぶれしやすくなります。	44
フラッシュ撮影したものが全体的に暗くなる。	フラッシュ光の届く範囲で撮影しましたか。	フラッシュ光の届く範囲で撮影してください。別売りのフラッシュをご使用のときは、フラッシュの使用説明書をご覧ください。	38
フラッシュ撮影したものの下部が暗くなる。	レンズフードを付けたまま撮影しませんでしたか。	カメラの内蔵フラッシュで撮影するときは、レンズフードを外してください。	116
	被写体に近づきすぎていませんか。	カメラの内蔵フラッシュで撮影するときは、被写体から1m以上離れてください。	38

<table>
<tr><th>症状</th><th></th><th>処置</th><th>ページ</th></tr>
<tr><td>ボディ表示部にErrが表示される、または何も表示されない。</td><td></td><td>電池を一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合、また何度も繰り返して表示される場合は、別紙「アフターサービスのご案内」に記載の弊社アフターサービス窓口にお問い合わせください。</td><td></td></tr>
<tr><td>裏ぶたが開かずフィルムが取り出せない。</td><td colspan="2">このカメラはセーフティロック機能を搭載しており、フィルムが入っていると裏ぶたを開けることができません。故障時など、非常の場合には以下の方法で裏ぶたを開けることができます。
1.メインスイッチ／モードダイヤルをOFFの位置に合わせる。
2.ファンクションダイヤルをISOの位置に合わせる。
3.ファンクションボタンとAEロックボタンを押しながら、メインスイッチ／モードダイヤルをOFF以外の位置に合わせる。
●裏ぶたのセーフティロック機能が解除されます。
4.暗室や暗箱の中にカメラを入れ、フィルムを取り出す。

この方法で開かない場合は、別紙「アフターサービスのご案内」に記載の弊社アフターサービス窓口にお問い合わせください。</td><td></td></tr>
</table>

付録

取り扱い上の注意

電池について

●電池の性能は低温になるほど低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラを保温しながら撮影してください。海外旅行や寒いところでは、予備の電池をご用意されることをおすすめします。なお、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。
●新品の電池を初めてお使いのとき、電池が保管されていた状況によっては、カメラの電源を入れると が点滅することがあります。この場合は電源を何度か切ったり入れたりすると、電池容量が回復します。

使用温度について

●このカメラの使用温度範囲は－２０℃～５０℃です。
●直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところにカメラを放置しないでください。
●液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
●カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から温かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。

その他

●カメラは精密機械です。取り扱いには注意してください。特に、シャッター幕、ミラー、レンズの信号接点などを傷つけないようにしてください。
●カメラに強い衝撃を与えないでください。
●バッグなどに入れて持ち運ぶときは、メインスイッチをOFF位置にしてください。
●このカメラは防水設計にはなっていません。海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。

手入れと保管の仕方

手入れのしかた

●カメラボディやレンズの外側を拭くときは、柔らかいきれいな布を使います。砂が付いたときは、ブロアーブラシで吹き飛ばします。こするとカメラを傷付けます。
●レンズ面を清掃するときは、ブロアーブラシでホコリ等を取り除きます。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くようにして軽く拭きます。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけるのは避けてください。
●シャッター幕、ミラーなど、カメラの内部に触れないでください。ミラーおよびその周辺のホコリはオートフォーカスに影響を及ぼす恐れがあるため、ブロアーブラシで軽く吹き払ってください。また、内部（特にシャッター）をボンベタイプのブロアーで吹かないでください。故障の原因になります。
●裏ぶたの内側にホコリがあるとフィルムを傷つけることがあります。ブロアーブラシで軽く吹き飛ばしてください。
●シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
●レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

●使用しないときは、レンズキャップやボディキャップを付けてください。
●長期間使用しないときは、電池を抜いてください。
●保管するときは、涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。
●防虫剤の入ったタンスなどに入れないでください。
●保管中も時々電源を入れて、空シャッターを切るなどの操作をしてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

事前に作動確認とテスト撮影をおすすめします。また、予備の電池を携帯することをおすすめします。万一、このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

本製品の補修用部品は、生産終了後7年間を目安に保有していますが、同等の製品に交換させていただく場合もあります。
アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」をご覧ください。

主な性能

オートフォーカス	方式：TTL位相差検出方式 検出素子：CCDラインセンサー(中央クロス、9点8ライン) 検出範囲：EV-1～18(ISO100) 動体予測フォーカス制御/AF制御自動切り替え/コンティニュアスAF/ワンショットAF/ダイレクトマニュアルフォーカス切り替え可能
AF補助光	内蔵フラッシュによる補助光　低輝度、低コントラスト時自動発光　作動距離範囲：約1～5m　プログラムフラッシュ装着時、フラッシュの内蔵AF補助光に自動切り替え
測光方式	TTL開放測光(14分割ハニカムパターン測光、中央重点測光、スポット測光) 測光素子：14分割ハニカムパターンSPC(シリコンフォトセル) 測光範囲：14分割ハニカムパターン測光時 EV1～20 スポット測光時 EV4～20(ISO100 F1.4レンズ使用)
シャッター	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター　シャッター速度：1/2000～30秒、バルブ(新品電池使用時約3時間)　フラッシュ同調最高速度：1/90秒　ハイスピードシンクロ機能使用時は1/2000秒
内蔵フラッシュ	ガイドナンバー：16(ISO100・m)　照射角：焦点距離28mm　充電時間：約4秒(カメラと電源を共有)　Pモード／撮影シーンセレクター：自動ポップアップ、自動発光(強制発光、発光禁止可)　A／S／Mモード：フラッシュアップ時は強制発光、ダウン時は発光禁止　赤目軽減プリ発光選択可能／ワイヤレスフラッシュ信号光発光可能(光量比制御も可能)
ファインダー	ルーフミラー式一眼レフレックス方式　視野率：90%×90%　倍率：0.7倍(50mmレンズ、∞位置)　視度：－2～＋1ディオプター　アイポイント：16mm(接眼枠より13mm)
フィルム給送	オートローディング(1コマ目まで自動送り) 1コマ撮影/連続撮影最高3コマ/秒 連続撮影露出ブラケット/1コマ撮影露出ブラケット/多重露光/セルフタイマー(10秒) 自動巻き戻し/途中巻き戻し可能 巻き戻し時間：約8秒(24枚撮り)
フィルム感度	DXコード付きフィルム使用時は自動設定(ISO25～5000)手動設定可能(ISO6～6400、1/3段)DXコードの付いていないフィルム使用時は前回のフィルム感度を自動設定　フラッシュ撮影時はISO25～1000のフィルムを推奨

<table>
<tr><td>撮影可能本数</td><td>試験条件：AFズーム28-100mm F3.5-5.6 (D)・24枚撮りフィルム・新品電池使用、1ヵ月に2本撮影
●標準撮影時(1コマごとにレンズを無限遠から2mまで3回駆動させ、シャッターボタン半押しで10秒保持後撮影、その他撮影準備を含む)
温度 20℃ −10℃
フラッシュ使用しない 約30本 約24本
フラッシュ50%使用 約14本 約11本
フラッシュ100%使用 約9本 約7本
●カメラの操作回数が少ない場合(1コマごとにレンズを無限遠から2mまで1回駆動させ、シャッターボタン半押しで5秒保持後撮影、その他撮影準備を含む)
温度 20℃ −10℃
フラッシュ使用しない 約45本 約35本
フラッシュ50%使用 約18本 約14本
フラッシュ100%使用 約11本 約9本
●カメラの使い方により撮影可能本数は変わります。
●電池を長持ちさせるために、撮影しないときはメインスイッチをOFFにしてください。
●36枚撮りフィルムの場合は、上記の2／3程度の本数になります。</td></tr>
<tr><td>大きさ</td><td>135(幅)×92(高さ)×66.5(奥行き)mm</td></tr>
<tr><td>重さ</td><td>375g(電池別)</td></tr>
</table>

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。